

事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策Ⅲ-1-2
発達段階に応じた教育の振興

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

社会教育課 前田秀典

電話番号

0852-22-5910

事務事業の名称	子ども読書活動推進事業	
目的	(1) 対象	未就学児、児童生徒、保護者
	(2) 意図	子ども読書活動を推進することにより、子どもたちの豊かな心を育て、人生をより深く生きる力を身に付けさせる。
事業概要	あらゆる子どもに読書を保障する環境を整えるため、子どもの読書を支える人たちの活動の充実を図る。	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	
1	指標名	市町村子ども読書活動推進計画の策定率（期限切れを含まない）	目標値		63.1	68.4	70.0	70.0	%
	式・定義	計画策定市町村数÷県内市町村数	取組目標値						
			実績値	47.4	57.9	57.9			
			達成率	-	91.8	84.7	-	-	%
2	指標名		目標値						
	式・定義		取組目標値						
			実績値						
			達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	2,824	3,618
うち一般財源 (千円)	2,564	3,182

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

・子どもの読書活動を支援するため、家庭、幼稚園・保育所、学校図書館、市町村図書館等や読書ボランティアなど子どもの読書にかかわる様々な人と連携・協力し、読書環境の整備に努めている。
 ・学校図書館図書標準を達成している学校の割合（小学校45.3%、中学校17.7%、平成27年度）
 ・読書を全くしない子どもが一定割合存在する。（島根県内の「学校の授業時間以外に、普段（月～金）全く読書をしない児童生徒の割合」…小学生19.2%、中学生31.4%、H29年度）。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

・学校教育関係者、公立図書館、読書ボランティア等からなる「島根県子ども読書活動推進会議」を開催し、子ども読書活動の推進のための取り組みについて協議・検討を行い、その内容を県事業に反映した。
 ・県内3カ所において子ども読書フェスティバルを開催し、子ども読書活動への理解と取組が県内各地に広がった。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

・家庭や図書館で全く読書をしない児童生徒がまだ一定の割合で存在する。
 ・県内市町村の子ども読書活動推進計画の策定率が横ばい。

②困っている状況が発生している「原因」

・読書習慣の定着は就学前から行うことが有効であり、未就学児を持つ保護者（祖父母等を含む）等に対して、絵本の読み聞かせ等の効用について周知を図っているが、その普及・定着が十分とは言えない状況である。
 ・子ども読書推進計画の策定は、法律上は義務規定ではなく、努力規定に留まっている。

③原因を解消するための「課題」

・未就学児に対して行う読み聞かせ等の効用について理解を深め、具体的な行動に移してもらえるよう、広報の仕方等を含め検討を図る必要がある。
 ・未策定市町村に対して、子ども読書活動推進の趣旨を粘り強く伝え、策定するよう働きかける必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・読書習慣の定着が図られるよう、未就学児に対する絵本の読み聞かせ等の効用について、より理解を深めてもらうための広報の実施及び親同士が語り合える場の設定などを働きかける。
 ・市町村担当課や市町村立図書館の職員が参加する各種説明会等において、子ども読書活動推進計画の策定及び読書普及の推進等について働きかける。